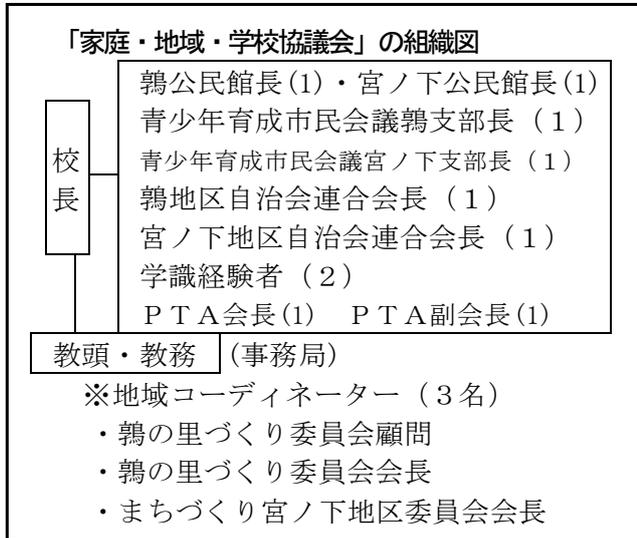


令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書
『地域のよさを再発見しよう』

福井市鶉小学校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- 第1回 令和元年 6月11日(火)
- ・「連合音楽会校内発表会」参観
 - ・本会の主旨説明・活動方針
 - ・本校の教育目標や教育計画について
 - ・小学校スクールプランについて
- 第2回 令和元年 11月13日(水)
- ・「学校保健委員会」参観
 - ・「引き渡し訓練」参観
- 第3回 令和2年 2月3日(月)
- ・授業参観
 - ・今年度の教育活動の振り返り(学校評価)
 - ・教育ウイークアンケート結果について
 - ・今後の課題について
- 第4回 令和2年 2月21日(金)
- ・川西中学校区合同協議会

(3) 協議会における成果と課題

- ・地域の現状を共有でき、地域で子どもたちを育てていこうという共通理解と将来目指す児童像の確認と展望を協議できた。
- ・核家族化や少子化が進む中で、家庭教育の重要性と学校が担うべき課題についての問題が多くあることやその解決に向けての取り組みについて意見交換ができた。
- ・各学年の現状や課題を指摘される中で、地域、学校、家庭でできることとすべきことをどうやって啓蒙し、取り組んでいくかが課題。
- ・学校開放や学校評価の課題

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

- ・地域の自然や人との関わりの中で、児童が地域のもつよさにふれることで、「ふるさと鶉」に誇りや愛着をもち、心豊かにたくましく生きる子どもを育てる。(5年生)
- ・地域で働く人々との関わりを通して、働くことの意義、喜びや苦勞を知り、さらには、地域への誇りや思いを高め、一人ひとりの児童に「生きる力」を培うことをねらいとする。(6年生)

(2) 活動の実際

① コスモスの栽培体験と看板づくり(5年生)

鶉地区の魅力を発表し合ったところ、地域の人たちといっしょに宮ノ下コスモスマつりをもっと盛り上げ、鶉地区を活性化していこうと考えた。そこで、宮ノ下公民館の方や地域コーディネーターの方と相談し、コスモス広苑の一部を5年生が担当させてもらえることになった。

7月にコスモスの種まきを実施した。10月にまちづくり委員会長の時澤さんに学校に来てもらい、コスモス広苑を始めた由来や植えているコスモスの種類など、コスモス広苑についてお話を伺った。しかし、今年度は台風の影響でコスモス祭りが開催されず、育っていたコスモスが倒れてしまい、作った看板は5年生が植えたコスモスのそばに設置し、クイズだけを楽しんでもらえるようにしていただいた。祭りでは、コスモスを観察したり5色ジュース「みやち

か」を飲んだりトラクターから鑑賞したりするなど、存分に地域の魅力に触れることができた。



②地域の名人・職人調べと職業体験（6年生）

キャリア教育の一環として、家族の職業や自分の将来の夢をもとに、興味・関心のある職業について調べ学習を行った。まず、家族の人へのアンケートやインターネットなどを利用したり、地域コーディネーターの方にたずねたり、鶉・宮ノ下・棗地区で名人・職人と呼ばれている人を調べた。職業体験したのは、「農業（園芸）」「介護福祉」「医療」「工業」「製造業」「サービス業」などの職種7つの団体・企業でそれぞれの職場で体験をした。「福井市園芸センター」では、花の栽培用ハウス見学、採花・包装の体験実習を体験し、「宝珠苑」では、老人体験や施設の見学の後、お年寄りとのふれあいを体験した。「福井総合病院」では、医師・看護師・検査技師の仕事について知ることができ、「すかつとランド九頭竜」では、ホテル内見学の後、部屋の掃除と準備やフロント業務を体験した。子どもたちは、技術的なことだけでなく、人との関わりの大切さを学んだ。「福井洋傘株式会社」では、作業工程の見学と骨組み部分の製作の手伝いをし、「力泉酒造」では、酒造りの話を聞き、蕎麦打ち体験をした。使う人や買ってくれる人のために、工夫を重ねて良いものを作ろうとする様子を目の当たりにすることができた。「ナック」では、カーブミラーや研究したものを商品として開発しようとするチャレンジ精神を学ぶことができた。学校では経験できないことが多く、どの職場でも児童は興味をもって取り組んでいた。

（3）地域コーディネーターの活動概要

- ・地域住民や鶉小児童へのコスモス広苑のPR活動・コスモス広苑の由来についての講話
- ・児童への種まきの指導・コスモスまつりの計画と実施（5年生）
- ・地域の名人・職人の探索活動・児童受け入れ可能な職場との連絡（6年生）

（4）特に工夫した事項

- ・自分たちがデザインした大きな看板を3人ずつのグループで自由に作成し、記録や写真に残し、話し合いながら、よりよい活動となるよう工夫した。（5年生）
- ・「働くことの意義」や「職業観」について、指導をお願いし、体験報告やお世話になった会社・施設の方々への報告とお礼、ホームページで知らせることもできた。（6年生）



【調べ活動】

【事後の話し合い活動】

【体験施設へのメッセージ】

3 成果と課題

コスモスの種まきから一緒に活動することで、自分たちの地域への愛着がさらに深まり、自分たちが知った地域の素晴らしいところを発信していくことができた。（5年生）

直接植物や野菜の世話をした児童は、作ったものに対する愛着が湧き、世話をする人たちの大変さを知ることができ、お年寄りとのふれあいを体験した児童は、優しい気持ちでお年寄りと接することができた。工場見学や洋傘作り、蕎麦打ち体験をした児童は、普段できないことに興味をもって取り組んでいた。今回の職業体験において、働くことの意義や苦勞を知ると同時に、生き物や生命の大切さ、人との接し方なども学ぶことができた。後日「将来の夢」の作文を書いたときに、職業体験のことが心に残り、将来の仕事に生かしたいという児童が何人かいた。また、ipadを活用し、記録や写真を見て振り返ったりホームページに載せたりして、児童同士や地域に発信することができた。（6年生）

